

見て触れて感じて、持続する農業へ挑む。そしてSDGsを考へろ。

# College of Agriculture

Tamagawa University

2024

玉川大学 農学部

生産農学科

生産農学科  
理科教員養成プログラム

環境農学科

先端食農学科

# 玉川大学 農学部

見て触れて感じて、持続する農業へ挑む。  
そしてSDGsを考える。



農学部 Website

## 生産農学科

Department of  
Agri-production Sciences

生物学と化学の両面から個体レベル、  
遺伝子レベル、分子レベルで生命の  
本質に迫る

### #Keywords

- ・作物・果樹・栽培技術・分子育種
- ・オルガネラ・微生物・病害防除
- ・農薬開発・バイオテクノロジー
- ・天然物化学・有用代謝産物
- ・社会性昆虫・昆虫生理・適応進化
- ・摂食行動・免疫・恒常性
- ・ゲノム・遺伝子・タンパク質

## 生産農学科 理科教員養成プログラム

Science Teachers Program in  
Department of Agri-production Sciences

様々な「体験」を通して実践的スキル  
を身に付けた理科教員に

### #Keywords

- ・中学校教諭一種免許状（理科）
- ・高等学校教諭一種免許状（理科）
- ・高等学校教諭一種免許状（農業）
- ・小学校教諭二種免許状
- ・ICTを活用した実践的な授業力
- ・安全で正しい実験方法・指導法
- ・豊富な模擬授業・模擬実験
- ・小中高理科の教材研究

## 環境農学科

Department of  
Agri-Environmental Sciences

SDGsへ貢献するため自然・農業・  
社会の多角的視点で環境問題に  
取り組む

### #Keywords

- ・環境保全・農業・絶滅危惧種
- ・栽培技術・国際協力・地域活性化
- ・環境適応・植物化学・生態系・森林
- ・里地里山・物質循環・環境動態・土壌
- ・生物多様性・相互作用・野生動物
- ・動物生態・ドローン・人工衛星

## 先端食農学科

Department of  
Advanced Food Sciences

先端技術で従来の農業の枠を超え  
未来の「食」づくりに挑戦

### #Keywords

- ・食の6次産業化
- ・閉鎖系での食料生産・植物工場・陸上養殖
- ・食品衛生・食の安全・安心・保蔵
- ・食品加工・企画開発
- ・微生物利用・発酵・醸造
- ・食の健康機能・食品分析
- ・栄養生理・応用栄養・スポーツ栄養

# 玉川大学農学部の特徴

## 1. 学内の農場 (玉川大学キャンパス: 東京都町田市)

東京にありながら、学内農場には畑・水田・温室が揃い、播種から収穫まで全ての農作業を経験できます。授業の合間でも気軽に圃場で作物の観察・調査ができます。さらに、農場周辺には里山が広がっており、めずらしい貴重な生き物たちに出会えます。



## 2. 触れることから始める実践的な学び

実際に手で触れて目で見て学ぶ学習環境を整えています。玉川大学キャンパス内には、LED を利用した植物工場や食品製造を学べる生産加工室があります。さらに、箱根の自然観察林や北海道・鹿児島 of 農場など、多様な環境の中で学びを広げることができます。



北海道  
弟子屈農場



鹿児島  
南さつま久志農場



玉川大学キャンパス LED植物工場



箱根自然観察林



## 3. 教員と学生がともに学ぶ ~師弟同行~

農学部では、教員と学生が共に学ぶことを大切にし、教職員が一丸となって学生の充実した学修をフォローします。1年次より担任が付き、全員への定期的な面談を行うだけでなく、普段からの声かけを大事にし、より良い大学生活が送れるようサポートしています。





植物科学領域/微生物科学領域/昆虫科学領域/動物科学領域



## バイオサイエンスの視点で農学を広く学び、 専門研究で深く掘り下げ、社会の発展に貢献

「食」「健康」をささえる産業、それを担う人を育てる「理科教育」などを発展的に持続させるためには、「生命」を科学的にとらえ「問題の感知」「知識の探索」「解決策の創出」をリードできる素養を備えた人が必要です。生産農学科は、植物・微生物・昆虫・動物の研究領域と理科教員養成コースを備えており、化学・生物学の基礎から学び、ラボでの実験やフィールドでの実習などの体験を重ね、それらを総合して発展させる専門領域での研究や教材研究を通じて、思考力・判断力や実践力を自らつかみ取っていく人材育成をすすめています。

### 主な開講科目

※科目名称や開講するセメスターは、変更されることがあります。

1年次 農場での学修などを通して生産農学を理解する基礎を築く。		2年次 各分野の知識を深め、生産農学の範囲や使命を理解する。		3年次 専門領域に所属し、学問分野と技術を理解し、課題を知る。		4年次 専門領域の中から課題を見つけ、そのテーマを追求する。	
セメスター 1 2		3 4		5 6		7 8	
<b>導入</b> サイエンスとしての基盤科目		<b>発展</b> 学科としての基幹科目		<b>専攻</b> 学生の志向に合わせた専攻科目		<b>専門研究</b> 学びたい領域を究める	
<b>講義科目</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>生物学 A・B</li> <li>有機化学 A</li> <li>農学セミナー</li> <li>化学 A・B</li> <li>環境と農業</li> <li>生物統計学 A</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>植物形態学</li> <li>微生物学</li> <li>細胞生物学</li> <li>昆虫資源学</li> <li>動物行動学</li> <li>生態学</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>植物育種学</li> <li>天然物化学</li> <li>ゲノム科学</li> <li>植物病理学</li> <li>昆虫学</li> <li>畜産学</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>生産農学演習 B</li> <li>生産農学演習 C</li> </ul>	
<b>実験実習科目</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎生物学実験</li> <li>基礎化学実験</li> <li>フィールド実習 A</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>フィールド実習 B</li> <li>生物化学実験</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>専門実験・実習 A</li> <li>専門実験・実習 B</li> <li>フィールド実習 C</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業研究 A</li> <li>卒業研究 B</li> <li>卒業研究論文</li> </ul>	
<b>実験実習の項目例</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>花の観察</li> <li>昆虫の外部形態</li> <li>哺乳動物の内部形態</li> <li>小農具の使用法</li> <li>秋野菜の栽培管理</li> <li>収穫物の品質調査</li> <li>陽イオン定性</li> <li>酸度の測定</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>生理活性物質の抽出</li> <li>害虫と農業・DNA 抽出</li> <li>タンパク質の分離</li> <li>病原菌と農業</li> <li>夏野菜の栽培管理</li> <li>草刈り機講習</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>土壌分析</li> <li>酵素の動力学定数</li> <li>天然物の抽出</li> <li>遺伝分離調査</li> <li>PCR 分析</li> <li>学外農場での自然観察</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>園芸作物の高品質化に関する研究</li> <li>ゲノム編集による生物の改良</li> <li>植物寄生菌の分類や菌類病害の診断</li> <li>社会性ハチ類の生理・生態の解析</li> <li>動物の行動への環境の影響</li> <li>栄養や環境の哺乳動物への影響</li> </ul>	

## 広く充実した実験室で理論と技術を身につける

実験背景と目的の理解、実験操作の習得、実験結果の取得と考察、レポート作成、レポートへのフィードバックを繰り返し、基礎力を付けます。



1人1台の顕微鏡で細胞観察



化学実験の様子



タンパク質の分析

### 取得可能な資格

- ・環境再生医初級
- ・学芸員

### 受講可能な検定・講習等

(講義外、任意、別途費用がかかります。)

- ・農業技術検定
- ・刈払い機取扱者安全衛生教育
- ・大径木伐木等(チェーンソー)特別教育(隔年)
- ・小型車両系建設機械(3t未満)特別教育(隔年)

## 広い学内農場で作物の栽培管理を学ぶ

フィールド実習A (必修)

フィールド実習B (選択)



自分専用の畑で野菜を栽培



ハウス栽培も体験

## 北海道・鹿児島で幅広い農業に触れる

フィールド実習C (選択科目、1ヶ所で宿泊実習)



北海道 弟子屈農場の演習林を観察



鹿児島 久志農場に面する海岸での調査

# 農学に関する幅広い分野を網羅した4つの専門領域(3年次より配属)

### 植物科学領域

作物・果樹の栽培技術の改良、  
分子育種や遺伝子機能解析に関する研究

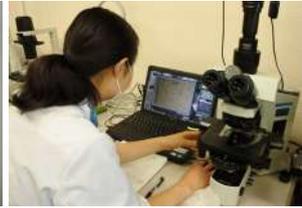


主な  
学問分野

- 果樹園芸学
- 植物生理学
- 栽培学
- 植物育種学

### 微生物科学領域

菌類資源、微生物が生産する  
有用成分、および、農作物の病害防除などに関する研究



主な  
学問分野

- 天然物化学
- 菌類資源学
- 植物病理学
- 微生物資源学

### 昆虫科学領域

社会性昆虫の行動・生態や機能利用、  
適応と進化の仕組みなどに関する研究



主な  
学問分野

- 昆虫生理学
- 化学生態学
- 昆虫生態発生学

### 動物科学領域

哺乳類の恒常性の維持機構や  
行動の生理・生化学的基盤などを研究



主な  
学問分野

- 動物生化学
- 動物生理学
- 分子細胞生物学

# Student's Voices

## 生産農学科



宇佐美 友唯さん(3年生)  
神奈川県 茅ヶ崎高校出身

### 入学のきっかけ

実家が梨農家なので農学を学びたい気持ちが強く、オープンキャンパスに参加し、ワンキャンパスで水泳部も続けられる環境にも魅力を感じて進学しました。

### 生産農学科での学びや大学の魅力

想像よりも化学系の科目が多くて少し苦労しましたが、先生が質問に丁寧に回答してくださったので理解することができました。農場実習がとても楽しく、将来に役立つ刈払い機の講習をキャンパス内で受講できる点もよかったです。卒業研究では、キウイフルーツの枝の長さや果実の大きさなどの関係を調べる予定なので、しっかり頑張りたいと思います。



住宮 義隆さん(4年生)  
東京都 東京農業大学第一高校出身

### 入学のきっかけ

昆虫が好きなので、昆虫の研究ができる大学を調べてオープンキャンパスに来てみたところ、ハチの話聞いて興味を持ったのがきっかけです。

### 生産農学科での学びや大学の魅力

昆虫科学領域に入り、養蜂場の見学や昆虫に関する実験実習が増え、とても面白く充実した体験ができました。卒業研究では、ミツバチの品種改良に貢献すると期待される精子凍結の条件検討を行いました。様々な工夫をした結果、よい成果を出すことができたので、学会発表にも挑戦予定です。さらに大学院に進んでミツバチが巣を守る仕組みについて解明したいと思っています。



藤原 翔さん(3年生)  
東京都 駒場学園高校出身

### 入学のきっかけ

生物の勉強や自然が好きで、動物にも興味があり志望しました。また、玉川大を知る親戚や高校の恩師に勧められたこともきっかけとなりました。

### 生産農学科での学びや大学の魅力

実験実習など体験しながら学ぶ授業が多いところが魅力です。レポート作成は少し難しいですが、データを上手くまとめられると達成感もあります。圃場実習では、メロンの世話にこまめに通って栽培過程を学べたことも印象的です。今後は興味があった動物に関する卒業研究に取り組み、将来は自然環境の保全に関わるような分野にも挑戦してみたいと考えています。



日高 水聡さん(3年生)  
静岡県 静岡東高校出身

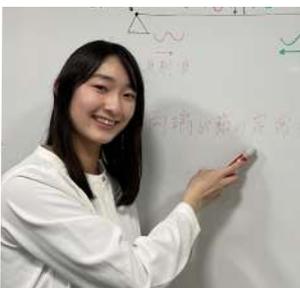
### 入学のきっかけ

生物が好きだったことと、子どもの頃に親戚の家で野菜やイチゴ栽培などの作業を手伝った経験から農業に興味を持ち、農学部へ進むことにしました。

### 生産農学科での学びや大学の魅力

大学に入ってから微生物が出てくる漫画を読んで興味を持ち、実際に微生物学などの授業が面白かったので、微生物領域を選びました。実習で学内でキノコ採集をした際、似たようなキノコが多くて図鑑で種を同定するのは難しかったのですが、楽しく学ぶことができました。将来は、大学での知識も活かせるような農業関係の分野で地元へ貢献する職に就きたいと考えています。

## 生産農学科・理科教員養成プログラム



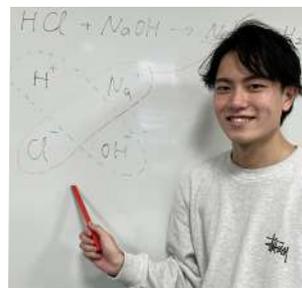
瀬崎 春花さん(3年生)  
茨城県 下館第一高校出身

### 入学のきっかけ

理科教員になるための進路を考えていた時、恩師が玉川を勧めてくれました。食品関係にも興味があり、農学部で小2 免まで取れる点が魅力的でした。

### 理科教員養成プログラムの魅力や将来展望

「教育インターンシップ」を履修し、中学校の理科の授業でサポートをした際、現場において多様な生徒への接し方や伝え方の工夫を知ることができ非常に勉強になりました。これまで塾でも教える経験をしてきましたが、今後は教育実習で理科の授業をするので、責任や不安も感じますが、理科の楽しさを身の回りの生活や自然と結びつけて伝えられるように頑張りたいです。



鴻野 瑛斗さん(3年生)  
神奈川県 松陽高校出身

### 入学のきっかけ

高校の物理の先生が理プロを勧め、オープンキャンパスに参加した時に玉川の先生方が接しやすく身近に感じたこともきっかけになりました。

### 理科教員養成プログラムの学びや魅力

模擬授業が多いので、実践的で役に立つ経験がたくさんできる点が魅力です。同級生の授業も参考になりますし、先生だけでなく同級生の意見ももらって自分の授業を見直すこともできます。実は昔は理科が苦手でしたが、中学時代に理科に興味を持たせてくれた先生の存在が教員の道へ進むきっかけとなりました。将来は、自分も日常とからめて理科の面白さを教えられるようになりたいです。

# 生産農学科 Science Teachers Program 理科教員養成プログラム



様々な「体験」を通して実践スキルを身に付けた理科教員に

理科教員養成プログラムでは、児童・生徒に理科の面白さや不思議さはもちろん学問としての奥深さも伝えることのできる教師を養成します。1年次には生物学、化学を学びつつ農場での栽培実習『フィールド実習 A』を行います。その後、物理学、地学の専門的な知識を修得し、理科の実践的な授業スキルや実験指導スキルを身に付ける専門科目（『理科指導法 I～IV』『生物実験スキル』『化学実験スキル』『教職実践演習』『教材研究』等）に取り組んでいきます。理科教員養成プログラムの学びは、1年次から同じ志を持ったクラスメイトと共に進められていくのが特徴です。日頃から教壇に立つことを想定し主体的に授業に取り組む学生を歓迎します。

理科教員養成プログラムでは、高等学校一種免許状（農業）も取得できます。さらに、小学校二種免許状を取得できるダブル免許プログラム\*も実施しています。

\*ダブル免許プログラムの受講には別途費用がかかります。

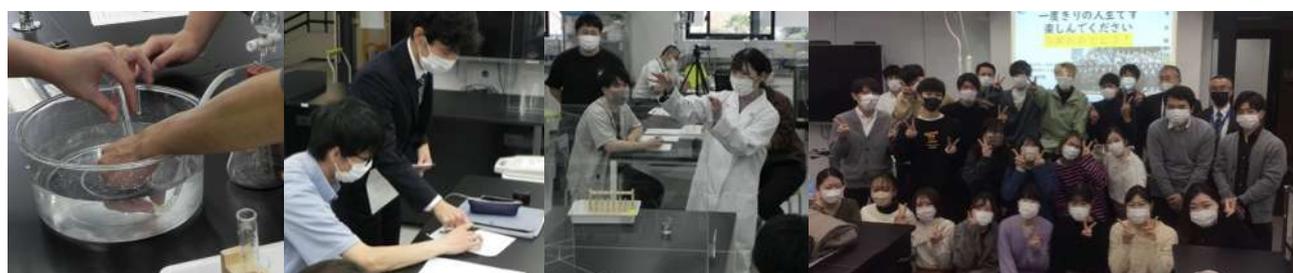


## 主な開講科目

シラバス(講義要覧・シラバス照会をクリックしてください。)\*  
\*科目名称や開講するセメスターは、変更されることがあります。



1年次		2年次		3・4年次		将来は	
参観実習など現場に触れながら、教職に関する基礎科目を履修。		理科に関する科目を学ぶとともに、教職に関するさまざまな科目を修得。		教職に関する科目を本格的に修得。4年次には教育実習で実践力を高める。		理科・農業の面白さを伝えられる教員へ	
1	2	3	4	5	6	7	8
学科の専門科目							
生産農学セミナー 化学 A・B 基礎化学実験	生物学 A・B 基礎生物学実験 フィールド実習 A	物理学 有機化学 A 生物統計学 B 地学実験	地学 生化学 物理学実験	環境と農業 植物生理学	動物行動学 食品製造実習	作物学 緑地保全学 食品製造	分類学 野外活動指導法
教職科目							
教育原理 学習・発達論	教職概論	教育の方法と技術 教育の制度と経営	特別支援教育	教育相談の理論と方法 生徒・進路指導の理論と方法 道徳教育の理論と方法		教育実習 教職実践演習	教職演習
教職関連の専門科目							
		理科指導法 I・II 職業指導	農業科指導法 I・II	理科指導法 III・IV 化学実験スキル	生物実験スキル	教材研究	
参観実習		教育インターンシップ／教育ボランティア				教育実習	





生態系科学領域 / 持続的農学領域



## 自然環境・農業・社会を多角的に理解し持続可能な社会へ貢献

持続可能な開発目標（SDGs）への社会的な意識の高まりから、専門的知識と問題発見・解決能力を持つ人材が世界的に求められています。それには、関連するさまざまな知識や経験、また、国際的に通用する英語力が欠かせません。環境農学科では「自然環境・農業・社会」をテーマに、豊富な英語プログラムや体験型授業、海外留学（約4ヶ月）、3年生後期以降の専門課程を用意し、「SDGs人材」を育みます。

### 学科基幹科目

※海外留学の時期により、科目を受講する時期は異なります。 ※科目名称や開講するセメスターは、変更されることがあります。

1年次		2年次		3年次		4年次		
基礎を築く		発展的に学ぶ		研究の基礎を学ぶ		卒業研究		
セメスター	1	2	3	4	5	6	7	8
	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業と自然</li> <li>化学入門</li> <li>基礎生物学実験</li> <li>農場実習A</li> <li>Intensive English A</li> <li>ELF101</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物学入門</li> <li>環境と生態</li> <li>環境農学概論</li> <li>農場実習B</li> <li>Intensive English B</li> <li>ELF102</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土壌生態学</li> <li>野生動物学</li> <li>自然環境保全学</li> <li>統計学入門</li> <li>環境農学実験</li> <li>ELF201</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>General English</li> <li>Plant Science</li> <li>Ecology</li> <li>Natural Resource Management</li> <li>Regional Environmental Studies</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続的農業論</li> <li>緑地生態学</li> <li>地球環境科学</li> <li>農場実習C</li> <li>ELF 202</li> <li>Practical English for Science</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農学国際協力</li> <li>領域演習A</li> <li>ELF 301</li> <li>Comprehensive Agri-environmental Studies</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>領域演習B</li> <li>卒業研究A</li> <li>卒業研究B</li> <li>卒業研究C</li> </ul>	

### 農場実習A・B

（1年生 前期・後期）

「体を動かしながら学べて楽しい!」と毎年、毎年、1年生に大好評の科目です。



### 領域演習A

（3年生 後期）

卒業研究の準備として、教員の指導のもと、実験や調査を通して専門基礎を学びます。



### Student's Voices



菊地 七海さん(4年生)

茨城県立藤代高校出身

#### なぜこの学科を選びましたか？

将来、博物館で働きたいと思っていたので、学芸員の資格をとりながら、興味のある生物が学べ、さらに国内や海外における実習が充実しているこの学科へ入学しました。

#### 実際に入学して感じたことは？

学科の先生が丁寧に面倒を見てくれると感じました。海外留学では、地域による植生の違いを体感できたことが印象に残っており、また、海外で生活する中で「自ら積極的に意見し行動する力」身に付いたと感じました。そして、4年次に取り組んだ「樹木ラベルを利用して学内に生育する樹木の価値を広める研究」を通じて培った、モノの価値を理解し人へ伝えるという観点は、卒業後に働く博物館での仕事に役立てられそうです。



関 優斗さん(3年生)

神奈川県立茅ヶ崎高等学校出身

#### なぜこの学科を選びましたか？

生物が好きなので、将来は生物に携われる仕事に就きたいと考えていました。この学科は、国内実習や、海外留学など、フィールドワークが多く、幅広い知識と実体験を得られると思い、選びました。

#### 実際に入学して感じたことは？

海外留学では、日本にない広大で豊かな自然の中で、今しかできない経験を得ることができました。また、英語に浸ることのできる環境は、英語力の向上に大きく役立ち、自分の伸び代を埋めて行ってくれる手応えを感じました。今後の大学生活でも、授業や卒業研究に取り組む中で、自身の視野を広げ、社会で活躍できる様々な力を身につけていきたいと考えています。

# 国内プログラム

学内と学外(箱根・北海道・鹿児島)での農場実習で、農業と自然を学ぶ



**神奈川県・箱根自然観察林**  
山地の自然や動植物とともに歩き方など野外での安全な活動方法についても学ぶ



**北海道・弟子屈農場**  
演習林実習、畜産実習、農業施設見学、周辺の自然観察調査を行い、北海道ならではの農業と自然を体験



**鹿児島県・久志農場**  
柑橘や熱帯果樹の管理、農業施設見学、隣接するビーチで沿岸生態系を調査、南国らしい農業と自然を体験

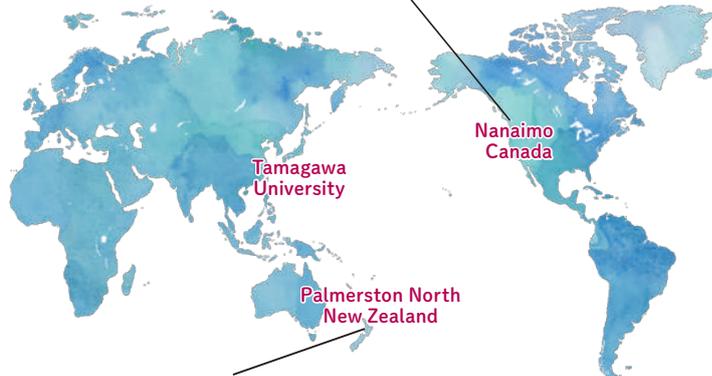
# 海外留学プログラム

4ヶ月の海外留学(必修)を含め、4年間で卒業

Vancouver Island University, Canada

**バンクーバーアイランド大学**

(カナダ、ブリティッシュコロンビア州、ナナイモ)



Massey University, New Zealand (2023年秋開始)

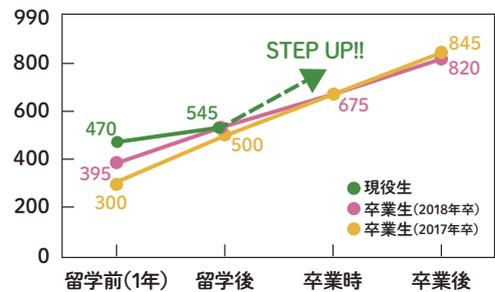
**マッセイ大学**

(ニュージーランド、パーマストンノース)

英語科目と、フィールドワーク(野外授業)を含む  
自然・農業・環境の専門科目を受講



世界に通用する「知識と力」を修得して卒業



卒業までにTOEIC®600点

# 2つの専門領域

3年生後半より「生態系科学領域」「持続的農学領域」のどちらかに所属し、4年生からは専門分野に分かれ卒業研究を進めながら、より高度な知識と技術を身に付けます。

## 生態系科学

生態系や地球環境の成り立ち、人間による環境への影響を研究する

## 持続的農学

環境負荷の少ない農業技術や希少植物の栽培手法、農業と社会の関わりを学ぶ

### 2022年度卒業生の研究テーマ(一部抜粋)

- ・ 広葉樹二次林における生木と枯死木周辺の土壌呼吸特性
- ・ バイオチャーを用いた都市緑地への炭素隔離
- ・ 倒木および周辺環境が倒木の更新に与える影響
- ・ 北海道における野生動物のログ堆積物利用について
- ・ 外来種ハッカチョウが在来種ムクドリに及ぼす影響
- ・ 中型外来哺乳類の誘引餌の検討
- ・ スナガニ類が土壌堆積物の有機物分解に与える影響
- ・ 森林風倒木地におけるマイクロ波衛星の散乱特性の解析
- ・ 水耕栽培装置における液槽内の濃度がトマトに与える影響
- ・ スギカワ培地における灌水頻度とコチョウランの生育
- ・ 野生ラン科植物の採種法の検討～受粉方法と受粉量について～
- ・ オオタニワタリの胞子による人工増殖法の検討
- ・ 農福連携の現状と今後の展望～神奈川県を事例として～
- ・ スマート農業の都市農業における普及と障壁、今後の展望
- ・ ハマベンケイソウの花色変化と訪花昆虫の生物間相互作用
- ・ 葉の黒色化に関する主要アントシアニンの構造解析

# 先端食農学科

Department of  
Advanced Food Sciences



システム農学領域／食品科学領域



## 先端技術で従来の農業の枠を超え未来の「食」づくりに挑戦

先端食農学科では、食品の持つ役割や安全性について理解を深め、既存の農業を超えた食料生産のしくみや食品の機能性、食品製造にかかわる専門的な知識と実践的な能力を身につけます。

既存の農業を超えた食料生産システムとして、LED を用いて野菜を生産する「Future Sci Tech Lab」や、海産物を陸上で養殖する「Aqua-Agri Station」、生産された食料を安心して食べることのできる食品に加工する「Food Science Hall」など、大型の実習施設が設置されており、これらの実習施設を利用しながら新しい食料生産のしくみを体験的に学修します。



Future Sci Tech Lab



Aqua-Agri Station



Food Science Hall



## 主な開講科目

取得可能な資格：食品衛生管理者、食品衛生監視員(任意資格)など

※ 履修状況により、取得可能な資格が異なります。

1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
食料・食品を理解する 基盤を築く		実験・実習で知識とスキルを 修得する		専門領域に所属し、実験・実習・ 演習を通して問題点を見出す		専門領域の中からテーマを発見 し追求	
1	2	3	4	5	6	7	8
<b>講義科目</b> ■ 生物学 ■ 有機化学A ■ 先端食農セミナー ■ 化学 ■ 分析化学		<b>講義科目</b> ■ 生物化学A・B ■ 有機化学B ■ 水産学 ■ 生物統計学 ■ 微生物学 ■ 食品機能化学 ■ 食品製造科学		<b>講義科目</b> ■ 食品衛生学 ■ 畜産物利用学 ■ 植物生理学 ■ 栄養生理化学 ■ 応用栄養学 ■ 生物化学C		<b>講義科目</b> ■ 先端食農演習A ■ 先端食農演習B	
<b>実験実習科目</b> ■ 基礎生物学実験 ■ 基礎化学実験 ■ フィールド総合実習A		<b>実験実習科目</b> ■ 先端食農実験 ■ 先端食農実習 ■ 食品加工実習 ■ フィールド総合実習B		<b>実験実習科目</b> ■ 専門領域研究A ■ フィールド総合実習C ■ 専門領域研究B		<b>実験実習科目</b> ■ 卒業研究A ■ 卒業研究B ■ 卒業研究論文	
3年次より専門領域（システム農学領域／食品科学領域） に所属します							

※科目名称や開講するセメスターは、変更されることがあります。

## システム農学領域

農業の効率化や省力化を実現するために新しい技術の研究開発に取り組んでいます。ただ単に新しさを求めるだけでなく、卒業研究では基礎からの積み上げを重視しています。



植物工場や陸上養殖施設の閉鎖系循環システムを利用した卒業研究が可能です。近未来型の食料生産に携わることで、新たな農業を考えてみよう。

## 食品科学領域

食品の安全、美味しさと健康について研究しています。新たな「食」づくりのための製造技術や機能性の解明という卒業研究に取り組むことで、社会で活躍できる人間形成を重視しています。



線虫やマウスなどのモデル生物、あるいはヒトを対象とした卒業研究が可能です。また、食品製造プラントの食品加工機械を操作して、新たな食づくりを考えてみよう。

# Student's Voices



近藤 晃洋さん(3年生)  
神奈川県立上矢部高等学校 出身

### 入学のきっかけ

私の夢は個人で飲食店を営むことです。個人経営のためには、食品の衛生や栄養について学ぶことは勿論、経済や法律の知識など多角的な視点が必要となります。玉川大学では専門以外の授業を受けられる柔軟なカリキュラムがあり、自由な校風に惹かれて入学しました。

### 成長できたと感じた学びや体験

学科の専門科目で食品の成分や機能性、植物の生育方法などを学び、「経営学」や「コミュニケーション論」で視野を広げることができました。また、私は花や野菜を栽培している農学部公認団体の「園芸班」に所属しており、旬の野菜を育てることで素材の大切さを学び、収穫祭では模擬店を出店し商品売る難しさを体験しました。これらの経験を糧にして自らの夢を叶えたいです。

### 入学のきっかけ

小さい頃から食べるのが好きで、食品に興味がありました。従来の農業だけでなく、植物工場や陸上養殖など先進的な農業についても学べるのが面白いと感じ、玉川大学に進学を決めました。

### 成長できたと感じた学びや体験

「先端食農実験」では本格的な実験に挑戦。最初はかなり手こずりましたが、徐々に器具の扱いや時間配分を身に付け、班のチームワークもあって実験をスムーズに進められるようになりました。先進的な農業から食品の機能性、加工技術など、食品にまつわるさまざまな学修が揃っており、食品を科学的に捉える視点を養っています。



佐藤 希さん(3年生)  
埼玉県立松山女子高等学校 出身



小木田 千笑さん(2年生)  
宮城県 仙台白百合学園高等学校 出身

### 入学のきっかけ

幼少期に家族でビールの製造工程を見学したことをきっかけに食品製造に興味を持ち、食品の栄養や機能性について学ぶために先端食農学科への入学を決めました。

### 成長できたと感じた学びや体験

充実した施設を使用した実験や実習が多いため、講義だけでは学べないことを学修することができます。「食品加工実習」では、普段手にする食品の製造工程や食品添加物の効果などを実践的に化学の視点から学びます。将来は食品に携わる仕事をしたいと考えているため、食品衛生管理者の資格を取得できるように頑張りたいです。

## 生産農学科

# 安定した高い就職率



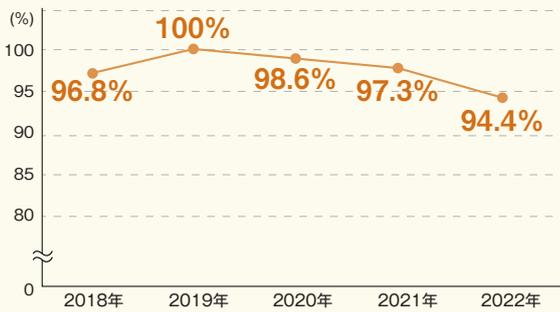
### 主な就職先

- ・塩野義製薬
- ・中外製薬
- ・持田製薬
- ・ゼリア新薬
- ・丸和バイオケミカル
- ・協友アグリ株式会社
- ・日本食研ホールディングス
- ・日本ハム
- ・タカナン乳業
- ・秋本食品
- ・株式会社蜂蜜工房
- ・タキイ種苗株式会社

- ・嶋屋種苗株式会社
- ・有限会社中澤農園
- ・ヤンマー
- ・株式会社北海道クボタ
- ・横浜丸中青果株式会社
- ・JA全農長野
- ・東京荏原青果
- ・群馬県庁
- ・茨城県庁

- ### 理科教員養成プログラム
- ・小学校教諭(全科、理科専科)、  
中学教諭(理科)、  
高校教諭(理科、農業)
  - 東京都教育委員会  
神奈川県教育委員会  
千葉県教育委員会  
茨城県教育委員会  
新潟県教育委員会  
山形県教育委員会 等

## 環境農学科

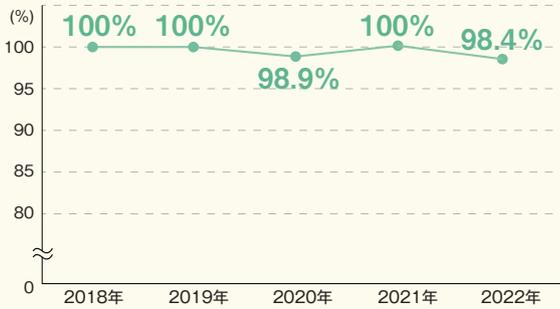


### 主な就職先

- ・農業法人深作農園(有)
- ・院庄林業株式会社
- ・生駒植木株式会社
- ・山崎製パン株式会社
- ・数島製パン
- ・シャトレーゼ
- ・プライムデリカ
- ・マリンフーズ
- ・公益財団法人埼玉県学校給食会
- ・イオンリテール株式会社
- ・株式会社京樽
- ・東京千住青果
- ・ドール
- ・日本食研ホールディングス

- ・ジャパンビバレッジホールディングス
- ・スターバックスコーヒージャパン
- ・生活協同組合コープみらい
- ・東京キリンビバレッジサービス
- ・相模鉄道
- ・清水建設株式会社
- ・JALスカイ
- ・日立システムズパワーサービス
- ・クボタアグリサービス
- ・JA(相模原市・東京みらい・会津よつば 他)
- ・新潟市役所
- ・愛媛県庁
- ・埼玉県庁
- ・小田原市役所

## 先端食農学科



### 主な就職先

- ・伊藤園
- ・紀文食品
- ・キュービー
- ・東ハト
- ・明治
- ・丸大食品
- ・協同乳業
- ・数島製パン
- ・フジパングループ本社
- ・日本ハムファクトリー
- ・米久
- ・明治屋
- ・あきんどシロ

- ・シャトレーゼ
- ・プライムデリカ
- ・伊藤忠食品
- ・イオンリテール
- ・オーケー
- ・東和薬品
- ・全国農業協同組合連合会 茨城県本部(JA全農茨城)
- ・セサ川崎農業協同組合(JAセサ川崎)
- ・横浜農業協同組合
- ・全国酪農業協同組合連合会
- ・東京中央農業協同組合
- ・特別区人事委員会
- ・厚木市役所
- ・山梨県警察本部

## アクセス

- 新宿より小田急線(快速急行)に乗りし、  
「新百合ヶ丘」にて(各停)〈準急〉に乗り換え  
所要時間 約30分
- 横浜よりJR横浜線「町田」にて  
小田急線(各停)〈準急〉に乗り換え  
所要時間 約45分
- 羽田空港から京急空港線に乗りし、  
「京急蒲田」で京急本線に乗り換え「横浜」へ。  
JR横浜線に乗り換え、「町田」で  
小田急線(各停)〈準急〉に乗り換え  
所要時間 約90分



## Information

### お問い合わせ

TEL 042-739-8155

〒194-8612 東京都町田市玉川学園6-1-1(入試広報部)

e-mail: koho@tamagawa.ac.jp

土曜・日曜・祝日及び下記の期間は休務となります。  
12月25日～1月4日(冬期休暇)

\*その他、学園行事及び入試広報部諸行事で休務となることがあります。ご了承ください。

[https://www.tamagawa.ac.jp/college\\_of\\_agriculture/](https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_agriculture/)



入試Navi